

西南大学

2008年攻读硕士学位研究生入学考试试题

学科专业：外国语言学及应用语言学

研究方向：日语教学论

考试科目：日语语言学基础

编号：832

(答题请一律做在答题纸上，并注明题目番号，否则答题无效。)

一、次の文章の線のところに適当な言葉を入れなさい。(1×12=12点)

- 1、言語の音声と内容は無数に多様に変化する連続体である。こうした現象を①_____の言語学者F. de ソシュールは言語の②_____と称している。
- 2、現代言語学の基礎を築いたソシュールは「ラング（言語）は概念を表わす③_____の体系である。」と規定している。
- 3、同一の対象物に対する各言語の意味内容と音声表現の結びつきは自由自在、勝手気ままである。こうした性格を言語の④_____と称している。
- 4、言語の変遷を歴史的に辿っていくのが、⑤_____的研究である。これに対し、ある時代のある地域の言語について記述する場合、⑥_____的研究を行っていることになる。
- 5、⑦_____の言語学者L. ブルームフィールドは、言語の機能を⑧_____と⑨_____の図式の中へ押し込んで考えている。
- 6、言語を使う時、言語記号化のプロセスが話し手側と聞き手側とでは逆向きになっていることがわかる。すなわち、話し手型は、⑩_____がとっている基本的路線であり、聞き手型は、⑪_____が歩いてきた道筋である。
- 7、⑫_____は、ヨーロッパではソシュールが学説の基を開き、アメリカではブルームフィールドがその理論の展開を図ったが、20世紀の30年代から50年代にかけて盛期を迎えた。

二、次の文章の（ ）の中に入れる言葉を、あとのア～カから選んで記号で記入しなさい。(1×6=6点)

①_____とは人間がコミュニケーションのために②_____を使って発する音である。音声の中には、咳払いや舌打ちのようなものと「ココニイル」、「シマッタ」のようなものがある。

り、前者を③_____、後者を④_____と言っている。両者の区別は主として、⑤_____されて
てできているかいなかによる。⑥_____の研究対象は言語音である。

ア 音節 イ 言語音 ウ 非言語音 エ 音声学 オ 発音器官 カ 分節

三、次の日本語の単語普通に発音したものとする。その場合、下線部分の子音について、音声学的に特徴づけるものを下記の選択肢からすべて選びその記号を答えよ。同じ物を2度以上選んでもかまわないが、該当しないもの選んだ場合は減点する。

(20点)

例：肉「ニク」：① ④ ⑧ [n]：有声歯鼻音

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1、海「ウ <u>ミ</u> 」：_____ | 2、交通「 <u>コーツ</u> ー」：_____ |
| 3、坂「 <u>サカ</u> 」：_____ | 4、蛾「 <u>ガ</u> 」：_____ |
| 5、交番「 <u>コーバン</u> 」：_____ | 6、寺「 <u>テラ</u> 」：_____ |
| 7、体「 <u>カラダ</u> 」：_____ | 8、花「は <u>な</u> 」：_____ |

①有声音 ②無声音 ③両唇音 ④歯音 ⑤軟口蓋音 ⑥摩擦音 ⑦破擦音 ⑧鼻音

四、次にあげた例文は、下に示された[~ている]形の種類のうち、いずれに相当するか、適当なものの符号を末尾の括弧内に書き込みなさい。(1×4=4点)

- ①この道は海岸へとカーブしている。()
②あのとき私は大学で勉強していました。()
③私は、若い時何回か日本アルプスに登っています。()
④毎日おおぜいの人が交通事故で死んでいる。()

(a)進行中の動作 (b)繰り返し (c)状態を示す (d)経験の回顧

五、次の文は何を表現か、適当な言葉で簡単に説明しなさい。(1×10=10点)

例：あの人は学生か。(疑問)

- ①妹は新しい夏服を買いたがっている。()
②ボーリングを教えてください。()
③新しいパソコンが発売された。()
④赤いから、からそうだ。()
⑤5万円もあれば買える。()
⑥この本はよく売れている。()
⑦来月新しい型のスポーツカーがでるそうだ。()

- ⑧そんなことはだれも知らないだろう。()
- ⑨さあ、掃除をしよう。()
- ⑩この歌を聞くと、以前の事を思い出された。()

六、次にあげた動詞につき、求められた語形を作るのにはどのような操作が適切か、適切操作の番号を解答欄に記入しなさい。(2×4=8点)

①「書く」の使役形

- a. 末尾の「く」を取り去って、「させる」をつける。
- b. 末尾の「く」を取り去って、「せる」をつける。
- c. 末尾の「u」を「a」に変えて、「aseru」をつける。
- d. 末尾の「u」を「a」に変えて、「せる」をつける。

②「食べる」の使役形

- a. 末尾の「べる」を取り去って、「させる」をつける。
- b. 末尾の「eru」を取り去って、「aseru」をつける。
- c. 末尾の「る」を取り去って、「させる」をつける。
- d. 末尾の「u」を取り去って、「seru」をつける。

③「書く」の受身形

- a. 末尾の「く」を取り去って、「られる」をつける。
- b. 末尾の「く」を取り去って、「れる」をつける。
- c. 末尾の「u」を「a」変えて、「れる」をつける。
- d. 末尾の「u」を「a」変えて、「る」をつける。

④「食べる」の受身

- a. 末尾の「べる」を取り去って、「られる」をつける。
- b. 末尾の「る」を取り去って、「られる」をつける。
- c. 末尾の「eru」を取り去って、「rareru」をつける。
- d. 末尾の「u」を取り去って、「eru」をつける。

七、次のそれぞれの助詞について、例文(a)～(d)のうち他の3つと違うものを選び、その符号を解答欄に記入しなさい。(2×5=10点)

①、「が」の用法

(a) 今東北では雪が降っている。

②、「を」の用法

(a) 学校を休む。

(b) テーブルの上に花瓶がかざってある。

(c) バイオリンの音がしたんだ。

(d) 像ははなが長い。

③、「に」の用法

(a) これを君にあげよう。

(b) ピアノの上に楽譜がある。

(c) 妹を友人に紹介する。

(d) 司会を先輩に頼んだ。

⑤、「と」の用法

(a) 父親と相談する。

(b) 友人と旅行する。

(c) 春子と結婚する。

(d) 弟と喧嘩する。

(b) 新聞を届けた。

(c) 王さんは寮をでた。

(d) 橋を渡る。

④、「で」の用法

(a) 神社で結婚式がある。

(b) レストランで食事をする。

(c) 喫茶店で話した。

(d) かぜで休んだ。

八、現代仮名遣い（昭和 61 年改訂）の表記について、正しい場合は○を、間違っている場合は×をつけよ。(2×10=20 点)

1、「コーヒーちゃわん」と書く()

2、「にいずま」と書く()

3、「おこづかい」と書く()

4、「つくずつ」と書く()

5、「おしずまる」と書く()

6、「かたづける」と書く()

7、「うなづく」と書く()

8、「すしずめ」と書く()

9、「じしん」と書く()

10、「ことしじゅう」と書く()

九、次の文は「とる」という言葉の実用例だが、漢字として最も適当なものを()に記入しなさい。(1×8=8 点)

1、事務を()る。

2、手に()って見る。

3、結婚式を()り行う

4、記念写真を()る。

5、社員を5名()る。

6、ねずみを()る。

7、筆を()って書く。

8、資格を()る。

十、次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(16 点)

語彙とは「単語の集まり」ということである。ただ、単語の集まりと言ってもそれにはいろいろな場合がある。単語そのものについても、単語の認定に関してはいろいろな問題があ

るが、それはさておき、集まり方について考えて見ると、日本語の語彙、八重山方言の語彙などというのは、一つの国語または一つの地域社会の言語の総体をさしたものであり、近松語彙、シェークスピアの語彙などは、特定作者の作品に現れた単語の総体をさしたものであり、植物学語彙、新聞語彙などになると特定の観点から、選んだ単語の集まりをさしたものである。

次に、語彙の研究では、やはり単語とは何かが大いに問題になる。その定義はともかくして、われわれが単語を考えるにあたっては、まず語形と語義とをとり上げなければならない。単語の語形や語義との関係について言えば、いつも両者が一対一で結びついているわけではなく、一つの語形がいくつかの語義をあらわしたり、一つの語義に対していくつかの語形があることもしばしばある。

問1、語彙と単語とはどんな関係にあるか、簡単に答えなさい。

問2、上の文中にあげた特定地域の語彙、特定作者の作品の語彙、特定分野の語彙などはいろいろな角度から考えた単語の集まり方である。そのほかに考えられる単語の集まり方をさらにいくつか挙げなさい。

問3、単語とは何か、その定義について答えなさい。

問4、「語形と語義とはいつも一対一で結んでいるわけでない」ということについて例を挙げて説明しなさい。

十一、次の文章を読んで下記の問いに答えなさい。(12点)

知識が環境的要因の基づいている限りにおいて、生物学的に規定された資源の一部である何らかの機構により、自分にかかわりのある情報を認定し引き出すための方法を脳が与えていることは確かである。そのような機構は言語力に特有のものであるかもしれないし、あるいはもっと一般的な「習得機構」であるのかもしれない。したがって、原則として、考察すべきは二つの要因である。すなわち、遺伝的に決定された言語能力の原理、遺伝的に決定された一般的習得機構、そして、言語共同体内で成長する子どもの言語的経験である。問題は、これらの要因を抽出し、性質を明らかにすることとなる。これらの要因のうちで、(A) 三番目のものが存在することは確実であると思われるし、(B) 最初の要因の存在に対する極めて強力な証拠もある。一般的な習得機構の地位については、広く考えられているのとは違って、他の要因に比べて明確さの程度ははるかに劣る。

問1、下線部(A)について、なぜこのように言えるのか、本文の主旨に沿って説明しな

さい。

問2、下線部（B）の具体例を一つ挙げ、なぜそれが証拠になるか、本文の主旨に沿って説明しなさい。

十二、日本語の動詞、形容詞、形容動詞の文法的共通点と相違点について説明しなさい。（12点）

十三、「文」、「分節」、「単語」の概念について述べなさい。（12点）